

歴史に学ぶ

大阪経済大学特別招聘教授
経済評論家

岡田 晃

第二十五回 実は名君だつた! 近江商人を育てた豊臣秀次

後継者から一転、「謀反人」に

周知のように、徳川家康は天下統一を完成させた。ではなぜ豊臣家はあえなく滅んだのか。現代の企業経営の観点から言えば、秀吉の事業承継の失敗が最大の原因だった。

秀頼が生まれる前、秀吉には有力な後継者がいた。甥の秀次である。秀次は、秀吉の姉・ともの長男として一五六八年に生まれ、十代の頃に秀吉の養子となつた。本能寺の変の二年後（一五八四年）、秀吉が家康と霸権を争つた小牧・長久手の戦いで、秀次は奇襲策を逆手に取られて大敗するという失態を犯したもの、その後は四国攻めなどで活躍し、秀吉の後継者として注目されるようになる。

十八歳となつた一五八五年、近江国的一部四十石（秀次の宿老の支配分を含む）を与えた。現在の近江八幡市に八幡山城と城下町を建設。一五九〇年の小田原攻めでも戦功を挙げ、尾張・北

伊勢などが加えられ百万石の大大名となつた。

翌年には、秀吉の嫡男・鶴松が三歳で病死したことから、秀次が名実ともに後継者となり、秀吉は関白の座を秀次に譲る。秀次は京の聚楽第に入り、太閤秀吉の指導の下で政務を遂行した。いわば、秀吉CEO（最高経営責任者）と秀次COO（最高執行責任者）の体制だ。

ところが一年後に事態は暗転する。秀頼の誕生をきっかけに秀吉と秀次の関係が悪化、ついに一五九五年、秀吉は「謀反」を理由に秀次を高野山に追放し、切腹させたのである。

秀吉はさらに聚楽第や近江八幡山城も徹底的に破却した。血縁的にも物理的にも秀次の痕跡を抹殺しようとしたのだ。

事件はそれだけでは済まなかつた。秀次の家老や家臣など約二十人を改易や流罪などと厳しい処分を下し、さらに秀次の子（生後数カ月の娘を含む五人）と正室・側室・乳母・侍女など合わせて三十数人を京都三条河原で衆人環視の下で処刑した。

秀吉は秀次を殺害した」として、「殺生関白」と渾名されているが、これも後世になつて作られた話が残されている。その一人、駒姫は山形の大

先進的な近江八幡の町づくり 「樂市樂座で商工業の発展図る

だが不思議なのは、秀吉がそこまで秀次を憎んだ理由が実は明確でないことだ。「謀反」の確たる証拠はない。また秀次は「刀の試し斬りを行い数百人を殺害した」などとして、「殺生関白」と渾名されているが、これも後世になつて作られた

イメージだ。

NHK大河ドラマの時代考証をたびたび手がけている小和田哲男博士（静岡大学名誉教授）は「秀吉が秀頼を溺愛するあまり秀次を死に追いやつた」「秀次は『殺生関白』などと言われる暴君ではなく、謀反も秀吉の『つち上げ』と断じている

（同氏著『豊臣秀次——『殺生関白』の悲劇』）。

では、秀次の実像はどのようなものだったのだろうか。秀次に関する史料は少ないうが、その手がかりは近江八幡に残されている。

秀次は、信長が生前に築いた安土城の西方約五キロ、標高約二七〇メートルの山の頂上に八幡山城を築いた。山頂付近の急峻な斜面には多くの石垣が残つており、堅固な山城だつたことがうかがえる。

山の麓には居館を建設した。近年の発掘調査によれば、標高約二七〇メートルの山の頂上に八幡山城を築いた。山頂付近の急峻な斜面には多くの石垣が残つており、堅固な山城だつたことがうかがえる。

秀次は、信長が生前に築いた安土城の西方約五キロ、標高約二七〇メートルの山の頂上に八幡山城を築いた。山頂付近の急峻な斜面には多くの石垣が残つており、堅固な山城だつたことがうかがえる。

秀次は、信長が生前に築いた安土城の西方約五キロ、標高約二七〇メートルの山の頂上に八幡山城を築いた。山頂付近の急峻な斜面には多くの石垣が残つており、堅固な山城だつたことがうかがえる。

秀次は、信長が生前に築いた安土城の西方約五キロ、標高約二七〇メートルの山の頂上に八幡山城を築いた。山頂付近の急峻な斜面には多くの石垣が残つており、堅固な山城だつたことがうかがえる。

秀次は、信長が生前に築いた安土城の西方約五キロ、標高約二七〇メートルの山の頂上に八幡山城を築いた。山頂付近の急峻な斜面には多くの石垣が残つており、堅固な山城だつたことがうかがえる。

秀次は、信長が生前に築いた安土城の西方約五キロ、標高約二七〇メートルの山の頂上に八幡山城を築いた。山頂付近の急峻な斜面には多くの石垣が残つており、堅固な山城だつたことがうかがえる。

秀次は、信長が生前に築いた安土城の西方約五キロ、標高約二七〇メートルの山の頂上に八幡山城を築いた。山頂付近の急峻な斜面には多くの石垣が残つており、堅固な山城だつたことがうかがえる。

秀次は、信長が生前に築いた安土城の西方約五キロ、標高約二七〇メートルの山の頂上に八幡山城を築いた。山頂付近の急峻な斜面には多くの石垣が残つおり



り、たびたび時代劇のロケにも使われている。

ただ秀次の近江八幡の治政はわずか五年で終わった。保護者を失つた商人たちは新たな商機を求めて天秤棒を担いで全国に行商に出るようになつた。これが近江商人の發祥の一つである。

これは実は、安土城の構造とそつくりなのだ。

秀次は、町づくりでも信長の政策をモデルにしていたフシがある。安土から商人や職人を呼び寄せ、樂市樂座によつて商工業の發展を図つたことだ。

戦国時代の城下町では敵の侵入を防ぐため街路を複雑にするのが常識だつたが、近江八幡の町は、縦十二筋、横四筋（所により六筋）の碁盤の目状となつてゐる。区域ごとに鍛冶屋、大工など職種を分けて住まわせ、土地は無税で貸与した。

戦乱の終結と平和への移行を先取りし、經濟發展を重視した都市計画だつたのである。

町づくりでは、「水」も重視している。城郭部分と城下町を区切る形で八幡堀を開削し、その両端を琵琶湖につないだ。城の堀としての役割とともに、琵琶湖を往来する船が八幡堀まで乗り入れられる運河とし、物流を活発化させた。

また生活用水確保のため、郊外の水源から親井戸まで水をひいたうえで、町内各地に共同井戸を作り、竹製の管を敷設して水を供給した。背割と呼ぶ下水溝も整備した。當時このような上下水道を備えた城下町は例がなく、日本最古と言われている。ここにも秀次の先進性が表れている。

こうして近江八幡の町は大いに栄えた。当時の町割りや八幡堀などは現在もそのまま残つてお

秀吉の事業承継失敗の教訓と後継者とナンバー2人材の育成が力ギ

名君とまで言えるかどうかはともかく、もし秀次が健在だつたなら、豊臣家の事業承継もあるいは成功したかもしれない。だが秀吉は自らその可能性をつぶしてしまつた。

それだけではない。前述の最上義光は豊臣家を恨み、助力してくれた家康に味方するようになつた。伊達政宗、細川忠興、山内一豊なども秀次と懇意にしていたとして処分の対象になりかけたが、家康のおかげで難をのがれてい。これをきつかけに彼らの心は豊臣家から離れ、五年後の関ヶ原の戦いで徳川方についたのだ。

今日の企業經營でこんなことはもちろんあり得ないが、身内や派閥のえこひいきによつて、有力な後継者候補や優秀なナンバー2を追いやつてしまふ例は少なくない。公平な目で幹部を育成し、後継者とナンバー2人材を配置することが企業の命運を左右すると言つても過言ではない。

岡田 晃（おかだ あきら）

一九七一年、慶應義塾大学経済学部卒業後、日本経済新聞社入社。
編集委員を経て、テレビ東京出向。「ワールドビジネスサテライト（WBS）」マーケットキャスター、同プロデューサー、NY支局長、テレビ東京アメリカ社長、理事・解説委員長。二〇〇六年から大阪経済大学客員教授。二〇一三年、同特別招聘教授。